

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 24日は、日本付近は冬型の気圧配置だが、西から次第に緩む。
- 24日から26日にかけて、高気圧が東シナ海から日本の南に移動する。
- 26日は、低気圧がオホーツク海に進み、気圧の谷が北日本付近を通過する。
- 27日から28日は、気圧の谷が東シナ海から日本の南にのびて、東へ進む。

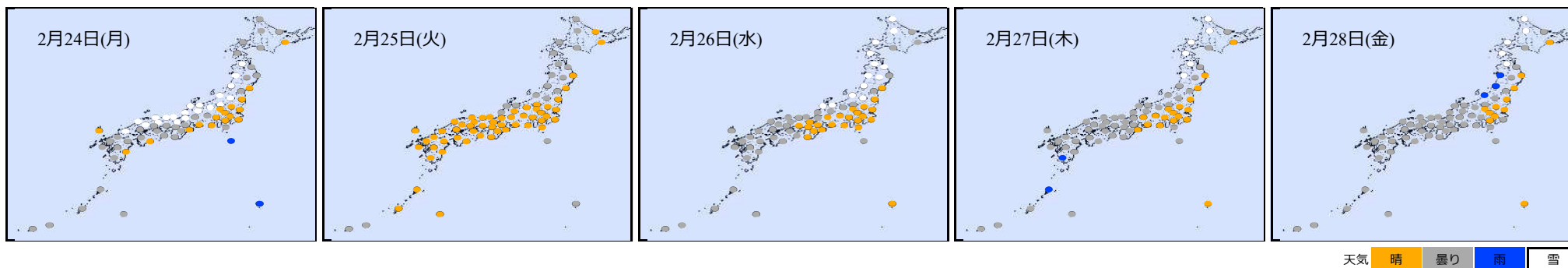
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 24日は冬型の気圧配置が続き、24日前半は日本の上空に強い寒気が流れ込む。北日本から西日本にかけての日本海側を中心に大雪となる所がある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

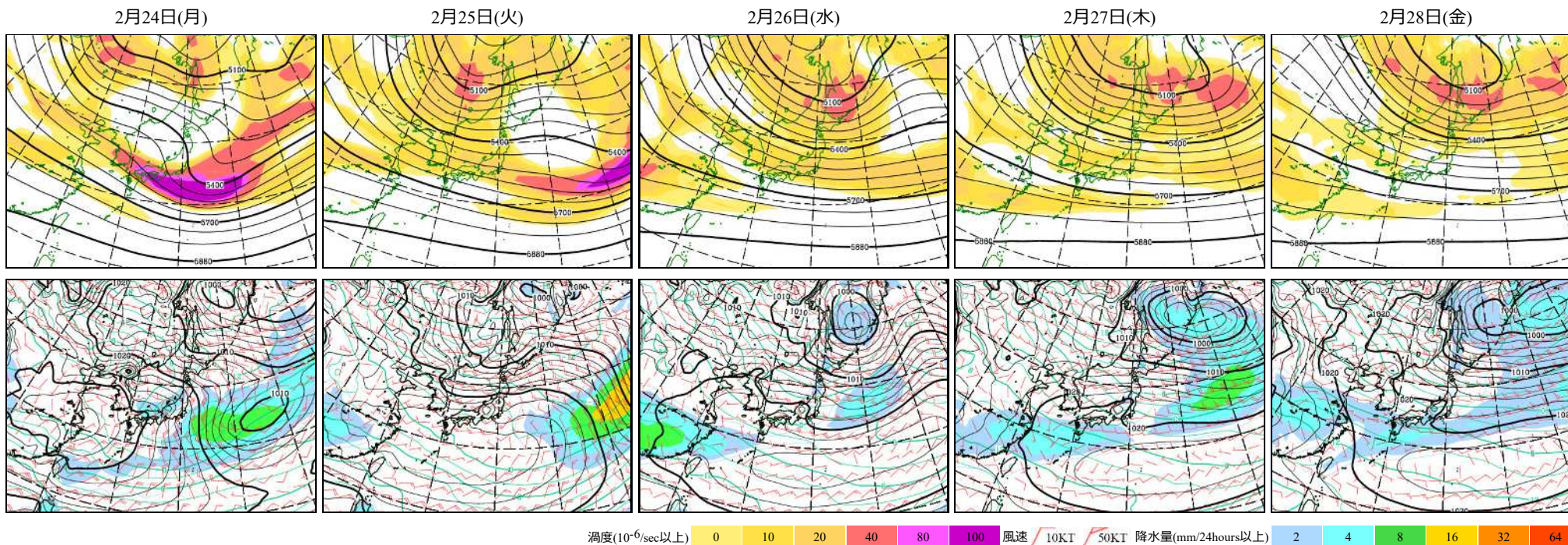
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

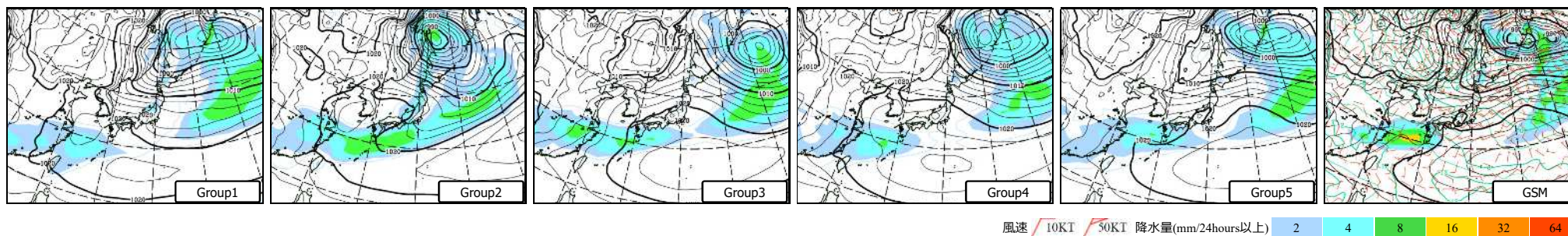


- 北日本と東日本から西日本にかけての日本海側は、曇りや雪または雨の降る日が多い。
- 東日本から西日本にかけての太平洋側は、曇りや晴れの日が多い。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすく雨の降る所もある。25日は晴れる所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆2月27日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料 (ENS) は、予想資料の変化は比較的小さい。
- 26日頃は各モデルとも、トラフが日本付近を通過し、低気圧が発達しながらオホーツク海付近に進む予想となっている。
- 期間の終わりは、前線もしくは気圧の谷が日本の南を東進する予想だが、前線が東進する速さや前線上の低気圧の予想はモデル間で差がある。
- スプレッドは拡大した日が多く、期間の終わりは特定高度線のトラフ・リッジのばらつきがかなり大きくなる。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。